
わが少年の日常のかがやき（駄菓子屋編）

山之内 白洞人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

わが少年の日々のかがやき（駄菓子屋編）

【Nコード】

N6465S

【作者名】

山之内 白洞人

【あらすじ】

今はもつどこにもない、甘くほろ苦い少年時代の思い出です。

過ぎ去れば全てが甘い思い出に醸成される。

思い出とはそんな物なのであるうか。

悔しかった思いでも、惨めだった思いでも今となってみれば懐かし
いだけだ。

昭和35年、私の住む開墾地に、一軒の商店が出来たのである。

雑木林と、小麦畑しかない開墾地である。

当時、家といえは我が家と、村長さんの家が数百メートル先のこん
もりした森の中に、

そして農家がちらほらだった。

そんなところに雑貨や、何でもや、当時の田舎の何処にもあった商
店が出来たのである。

これはテレビが初めて我が家に来たとき以来の驚きだった。カルチ
ヤーショックだった。

私の一日のこずかいは10円だった。当時はそんなものだったと思
う。

基本的に当時の農家は自給自足なのである。

お金は原則使わないのである。

10円でなにを買うか？

コリスガムのクジがある、これは1回10円で当たるとコリスガム
の大きなガムセットがもらえる。

はずれはコリスガム一個だ。

糸引き飴もあつたね。円錐形の大きな飴が糸で束ねてあつて、糸を引くと大中小の飴のどれかが引かれてくる。大きいのが引かれれば当たり前だ。

甘納豆の籤もある。大きな箱に数十のしきりがあり、それぞれに小粒甘納豆の子袋が入っている。

どれかの仕切りを選んで指でそこを押し開けると、運がよければ当たりが出てもつと大きい甘納豆セットがあたるのである。

ところで、なぜかこの甘納豆おいしいのである。小粒で5ミリくらいの粒で美味しかった思い出ばかりが残っている。

コッペパンも買ったね。コッペパンが一個10円なのである。そしてもう5円出すとイチゴジャムを店ののおばさんがブリキのドウコをあけてしゃもじですくってパンを包丁で切つて開き塗ってくれるのである。

これもおしかったなあ、随一のご馳走だったね。

今もあのドウコのジャムの画像が目に焼きついている。

今思えば人工着色料、そして萁なんて欠片も入っていなかったニセジャムだったのだろう。

でも昭和38年にはそれはとんでもないご馳走だったのです。

ワタナベのジュースの素も買って飲んだね。

人工甘味料人工着色料人工香料のコーナジュースである。

今では考えられないことだ。

そしてアイスクャンデー

棒にさした赤や黄色のアイスクャンデー

ゴム袋に入ったアイスもある。

大きな繭形のゴム袋に入ったあのアイス。

形抜きもある。薄いガムみたいな菓子でいろんな形が刻んであり、その通りに抜くと商品がもらえるのである。針を使って壊さないように抜いていく。これが難しい、ぽろっと壊れてしまえばそれで終わりである。

紙ニツキも私は好きだったね。15センチ四方くらいの和紙にニツキ餡がしみこませてあるのである。

それをちぎっては舐めちぎっては舐めするのである。

ニツキの香りが口中に広がり至福の時が得られた。

写し絵も買ったね、水にぬらしてうでに貼ると絵柄が腕に転写されてまるで刺青みたいになるのである。

バラキャラも良く買った。ばら売りのキャラメルである。

駄菓子屋に良くある大きなガラス瓶、アルミの蓋のついたあれだ、あの中にキャラメルがどっさり入っている。一個1円であった。

5個で5円。買っては舐めた物だった。

食べ物以外では釣り糸や針などは夏には買ったし、

ビーダマやブツケ（面子）も買う。

バルサの模型飛行機も良く買ったね。組み立てては飛ばした。

お正月にはコマも買う。凧も買う。羽根突きも買う。

あれから40年、今でもその店はある。

ご主人は交通事故で即死、あとは奥さんが商売を引き継いで今は娘さんが、お嬢さんを取って酒屋として営業している。

しかし、もうこれらの商品は当然そこではうっていない。

私の思い出の中の店でしか売ってはいない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6465s/>

わが少年の日々のかがやき（駄菓子屋編）

2011年10月3日19時44分発行